

ザック・ワイルド発展●ブラック・レーベル・ソサイアティ・セレクション

Selection

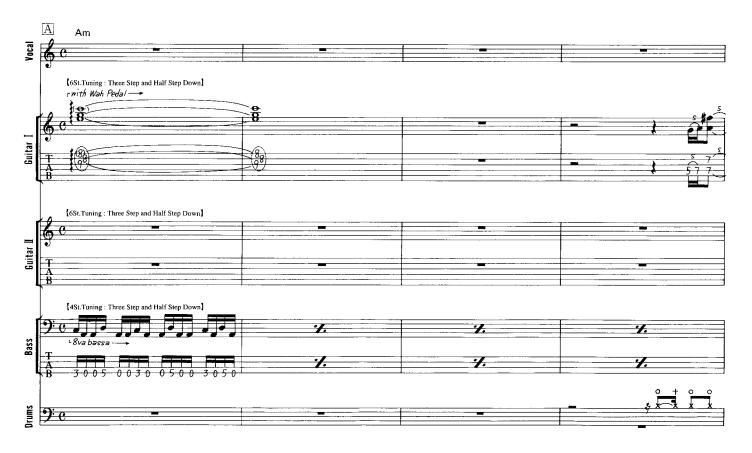
GUINED BLIDD DUD.DD LITE

## **BORED TO TEARS**

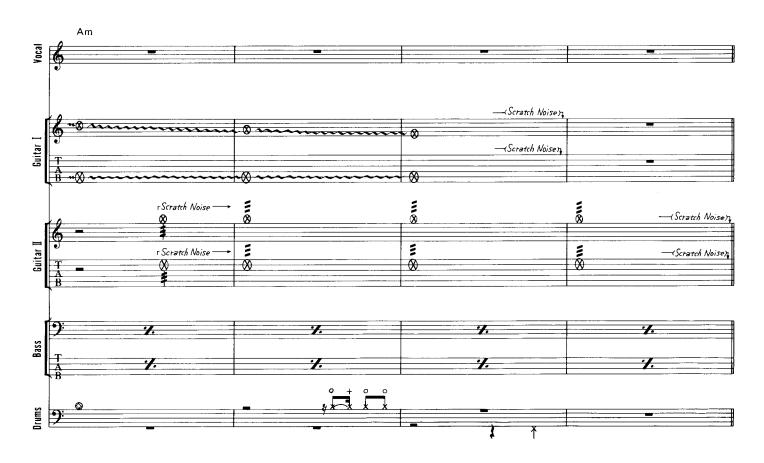
ボアド・トゥ・ティアーズ Words & Music by Zakk Wylde

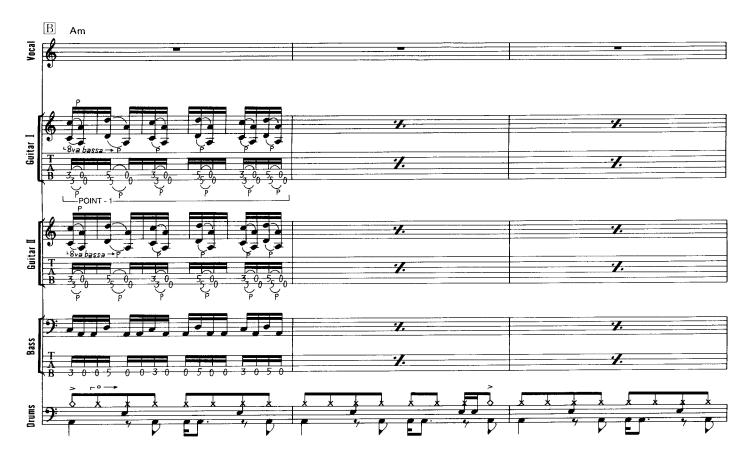
アルバムのトップを飾る、超ヘヴィなナンバー。それもそのはずで、 ギターの6弦、ベースの4弦をなんと3音半下げる、という掟破りのチ ューニングが採用されている。3音半下げるということは、最低音が "A"になるわけで、こうなると、7弦ギターの最低音の"B"よりも、 さらに低い!! 一部のグランジ系のバンドでは、"A"までチューニング を下げるケースが無いわけじゃないが、レギュラー・チューニングでも 十分にヘヴィなサウンドを出すザックが演ると、やはり違う。ところで …、3音半もチューニングを下げると、弦のテンションが"ベロベロ" 状態になってしまうのは、当たり前。従って、少なくとも6弦(ベース の場合は4弦)には、それなりに太い弦を張っておく必要がある。ちな みに、ザックは".058"だそうで…。また、いくら太い弦を張ったとこ

ろで、チューニングが合わせにくくなる問題は避けられない。強めにピッキングした際、あるいは力を入れて押弦してしまった際に、ピッチが 上がってしまうことを考慮し、あらかじめ、ほんの僅かだけ低めに合わ せておく方が賢明かも!? さらに言えば、これだけチューニングを下げ ると、スピーカーの口径が小さなアンプだと、低音のピッチを明確に再 生できなくなるケースも考えられる。まぁ、これはプレイする環境にも よるが、なるべく大型のアンプを、それなりの音量を持って鳴らした方 がベターだ。プレイに関しては、全パートとも比較的シンプルなので、 さほど問題になる部分はないと思う。ただし、必要以上に音を短く切っ たり、リズムが突っ込んでしまうと、ヘヴィさが薄れることがあるので、 十分に注意しよう。







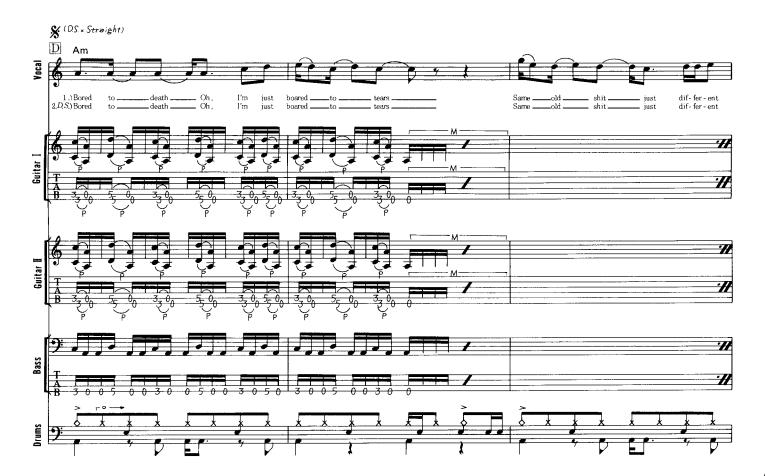








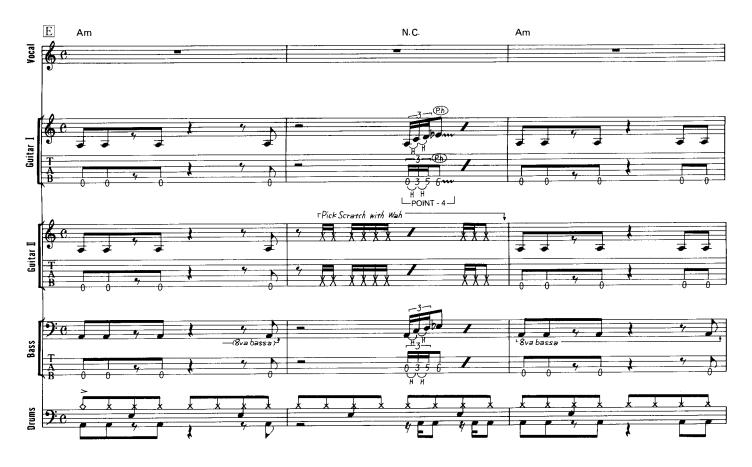
/









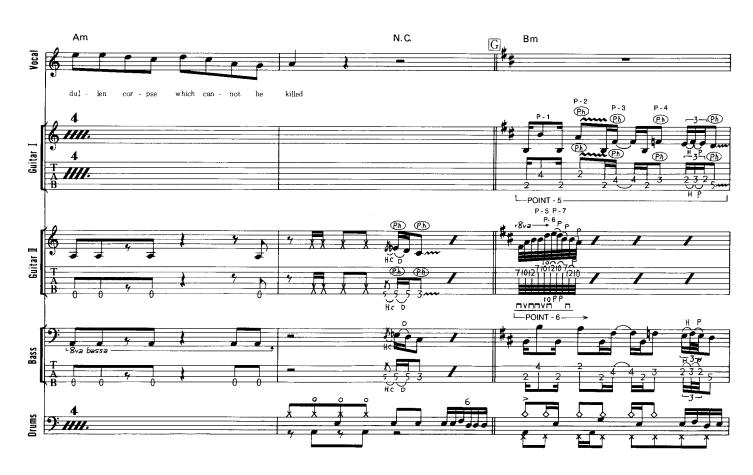




II

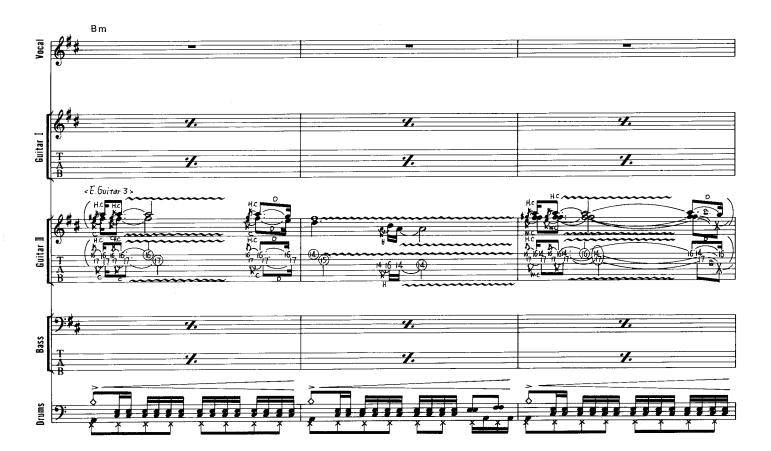




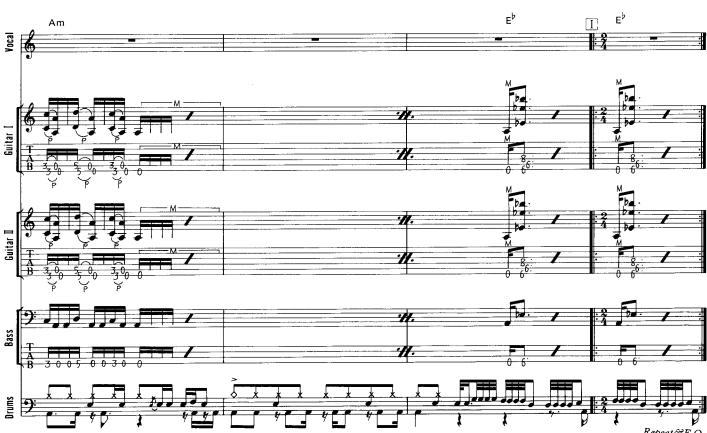


.









Repeat GF.O.

# **BORN TO LOSE**

### ボーン・トゥ・ルース Words & Music by Zakk Wylde

ブラック・サバス風のリフが印象的なナンバー。アルバム『ソニッ ク・ブリュー』の中では、数少ない(!?)曲調がヘヴィな割には、チュ ーニングは、意外にも(!?)レギュラー。それにしても、レギュラー・ チューニングにも関わらず、このヘヴィさは何なんだ!?オクターバーを 掛けたギターをダビングして、通常より1オクターブ低い音こそ出して はいるものの、これは言ってみれば一種の隠し味に過ぎない。考えてみ れば、サバスのトニー・アイオミだって極端にチューニングを下げなく ても、十分にヘヴィな音を出していたわけで…、要は"腕"ってことな のだろうか? 一応、ポイント解説の部分に、ヘヴィさを演出するポイ ントについて、軽く触れておいたので、参考にして欲しい。実際のプレ イに目を向けると…、回から正、田から①のテンポ&リズム・チェンジ がポイントになると思う。前者の場合は、アレンジの関係上、ギタリス トに任せてしまって問題はないが、後者の場合は、そうもいかない。特 にテンポに関しては、チェンジする前後に何の関連性もないので、非常 に厄介だ。こればかりは、バンド全体で何度もリハーサルを重ね、スム ーズに次のパートに移れるように練習しておくしかないだろう。



© Copyright by Bellbottoms and Beer Music(BMI) The rights for Japan assigned to Global Rights Inc.





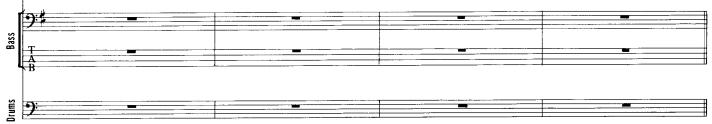




ì





















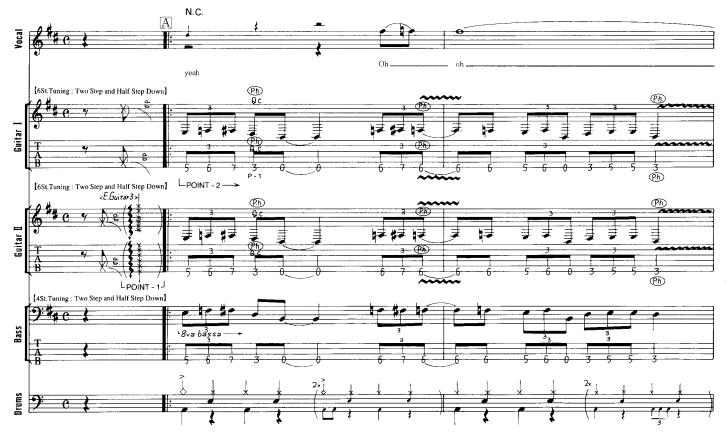


### DOWN

#### ロウ・ダウン Words & Music by Zakk Wylde

ヘヴィな単音リフが印象的なシャッフル・ナンバー。まず、チューニ ングだが、ギターは6弦のみ2音半下げ、ベースは4弦のみ2音半下げ でプレイされている。ただし、ギター・ソロのみはレギュラー・チュー ニング。スコアで言うと⑤~①の上段に記したパートのみが、レギュラ ー・チューニングでのプレイとなるので十分注意して欲しい。余談だが …、『ソニック・ブリュー』中の変則チューニングは、いずれも6弦の みを下げたものとなっている。「何故、6弦だけを?」と訊ねると、「面 倒くさいから。」だそうで…。いかにもザックらしい理由に、思わず納 得!? さて、この曲。バンドでプレイすることを考えると、「ボーン・トゥ・ルーズ」同様、曲途中のリズム&テンポ・チェンジが問題となる。 スコア中の回から回でのリズム&テンポ・チェンジは、ギタリストに任せてしまって問題はないが、」から「Jの場合は、そうもいかない。気の利いたアドヴァイスが出来なくて恐縮だが…、こればかりはバンドでリハーサルを重ね、メンバー間の"呼吸"で合わせられるように頑張って欲しい。

( **J** - **J** <sup>3</sup> **)**)



© Copyright by Bellbottoms and Beer Music(BMI) The rights for Japan assigned to Global Rights Inc.

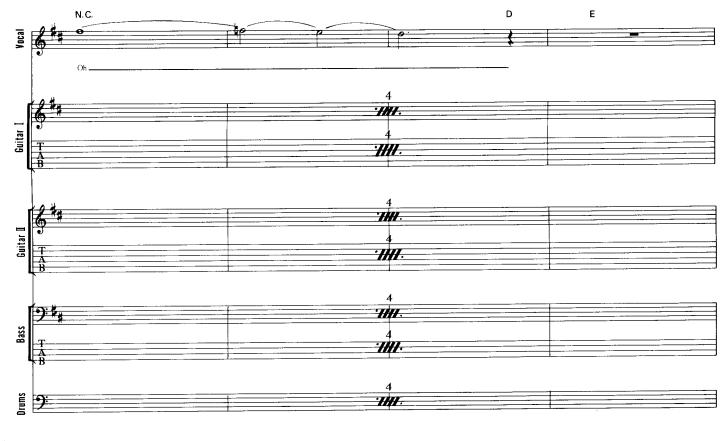


narina la baseria dari dari a terrangen et en este

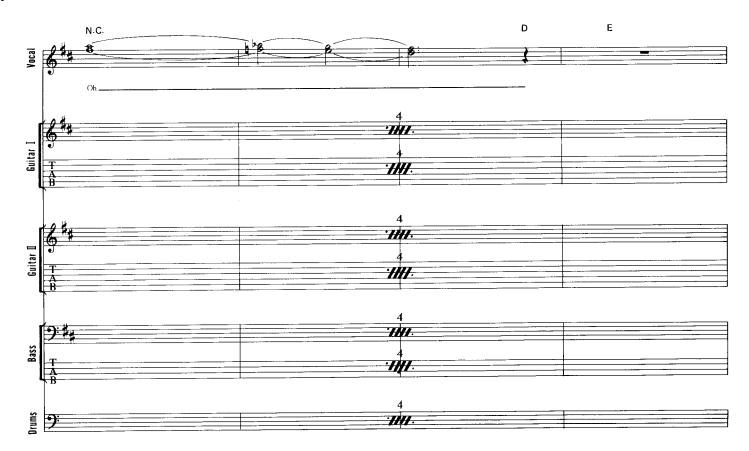




















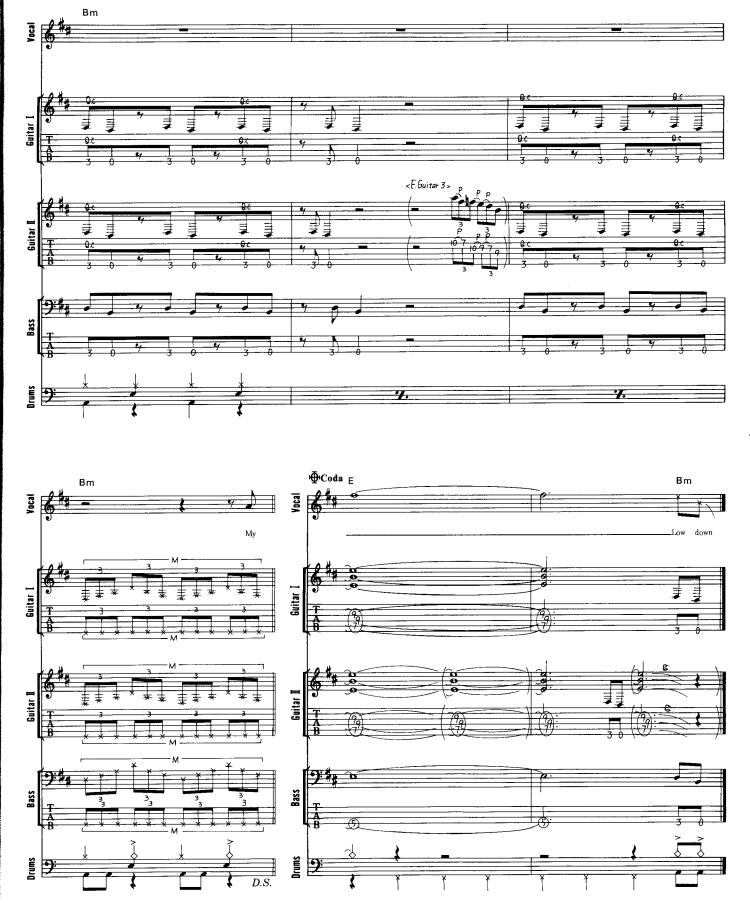












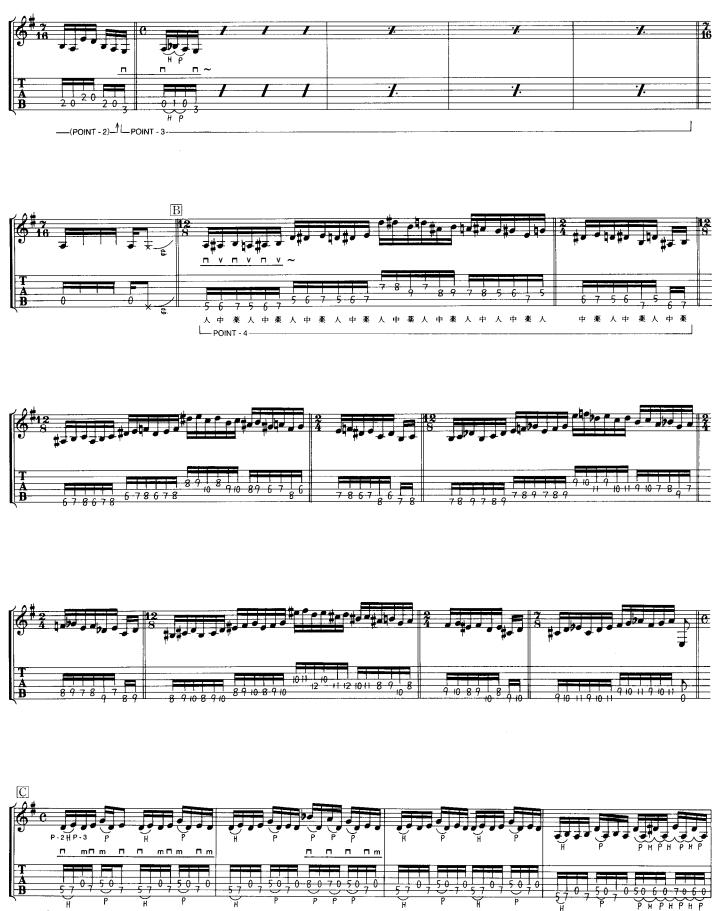
# **T.A.Z.**

### Music by Zakk Wylde

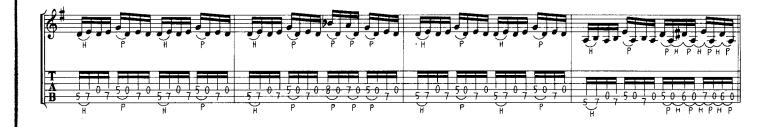
アコースティック・ギター1本による小曲。約2分と、短い曲ではあ るが、フル・ピッキングの速弾き、カントリー風のチキン・ピッキング といったザック奏法の肝となるエッセンスをふんだんに含んでいるた め、その内容は非常に濃い!! さしずめ、ザック版の「スパニッシュ・フ ライ」(ヴァン・ヘイレン)といったところか!? ギター・プレイに関し て言うと…、曲前半は、フル・ピッキングの速弾き、後半はチキン・ピ ッキングがポイントとなる。恐らく、読者諸君の興味が集まるのは、後 半のチキン~だろう。で、この後半部分。一聴した限りでは、とんでも なくテクニカルなプレイのように思えるが、肝となるピッキング・パタ ーン自体は大変シンプルなので、実のところは、それほど難しいプレイ じゃない。コツさえ掴めば、初心者でも十分に攻略できるプレイなので、 恐れずにトライしてみよう。

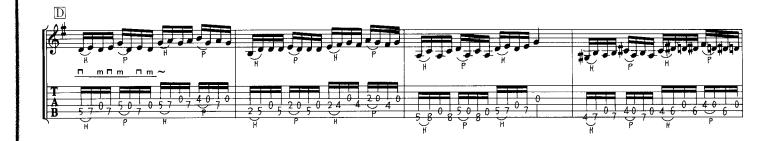


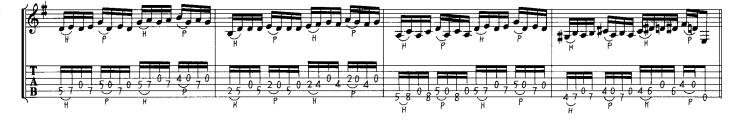
© Copyright by Bellbottoms and Beer Music(BMI) The rights for Japan assigned to Global Rights Inc

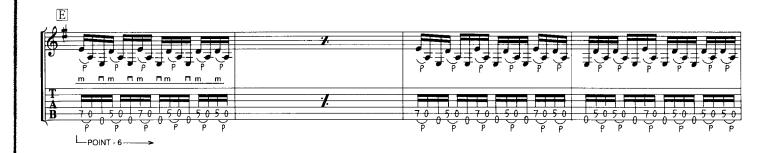


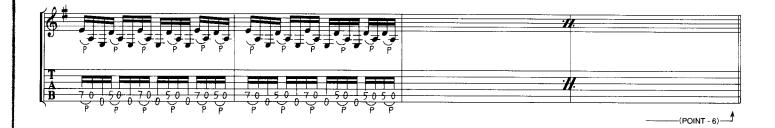
H P

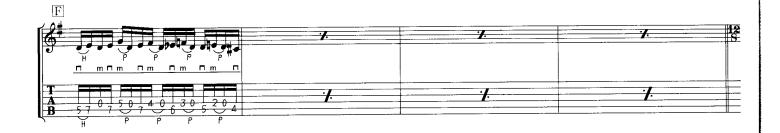


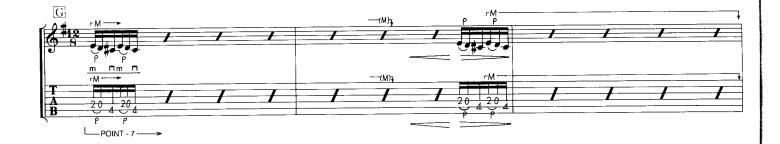




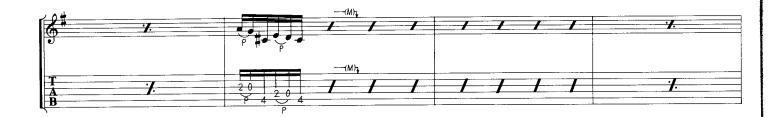


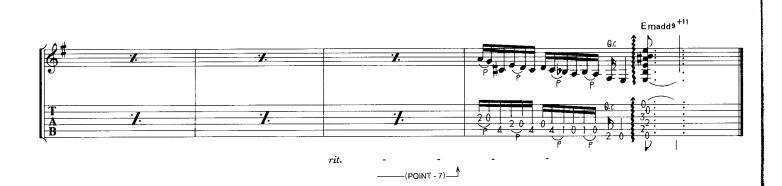








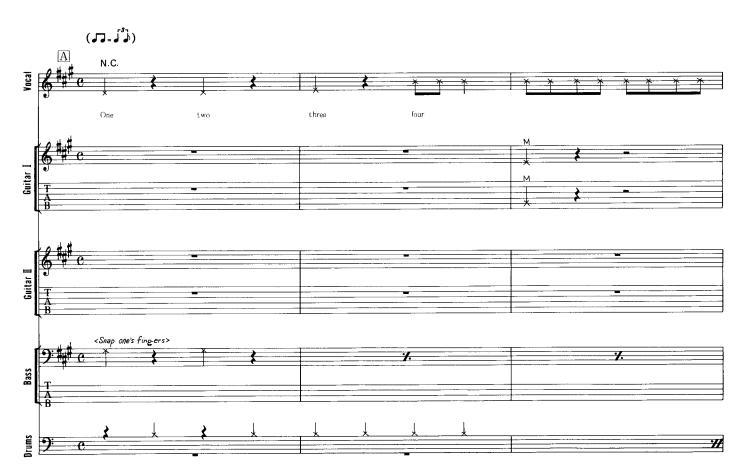




## **WORLD OF TROUBLE**

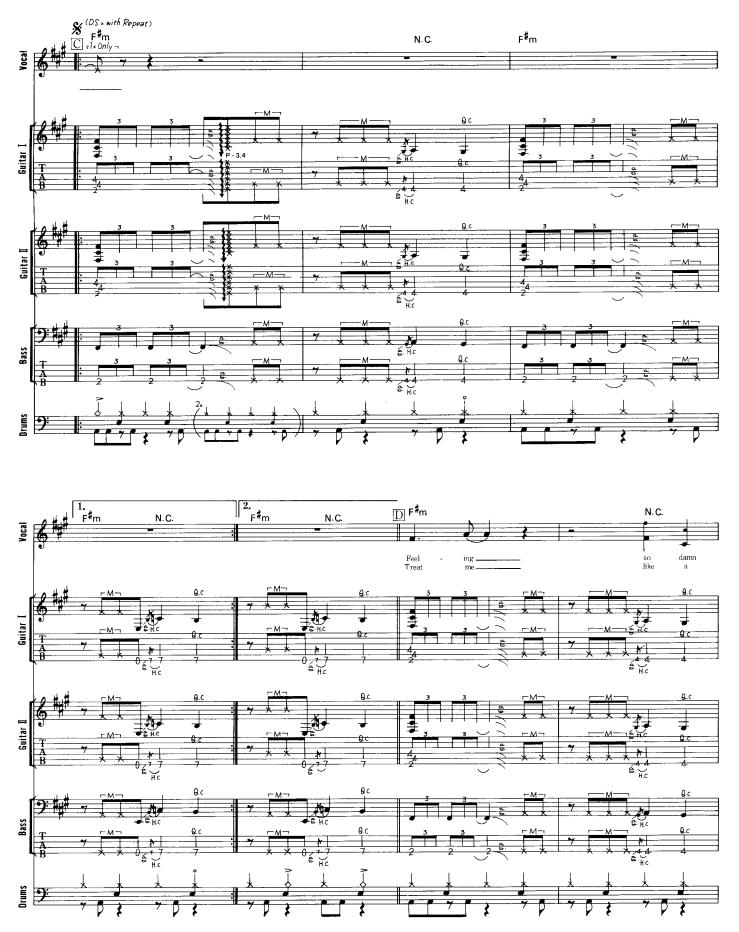
### ワールド・オブ・トラブル Words & Music by Zakk Wylde

「ロウ・ダウン」同様の、ヘヴィなシャッフル・チューン。チューニ ングはレギュラーだが、それでも十分にヘヴィに仕上がっているのは、 やはりザックの"腕"によるところが大きいのだろう。尚、この曲では、 ロト・ヴァイブによるエフェクトが、効果的に用いられている。実際に ロト・ヴァイブを持っている読者は少ないとは思うが、できれば何らか のトレモロ系のエフェクターを用意した上でトライしてみて欲しい。言 うまでもなく、ワウ・ペダルも必需品だ。「ロウ・ダウン」にも言える ことだが、バンドで、この手のシャッフル・ナンバーをプレイする際は、 リズムの"ハネ具合"を揃える点に十分気を使って欲しい。とりわけ、 シンコペーションしている部分は要注意。これらのタイミングが、しっ かり合えば、見違えるほど(聴き違えるほど!?) ヘヴィ、かつ、タイト なバンド・サウンドが得られるはずだ。

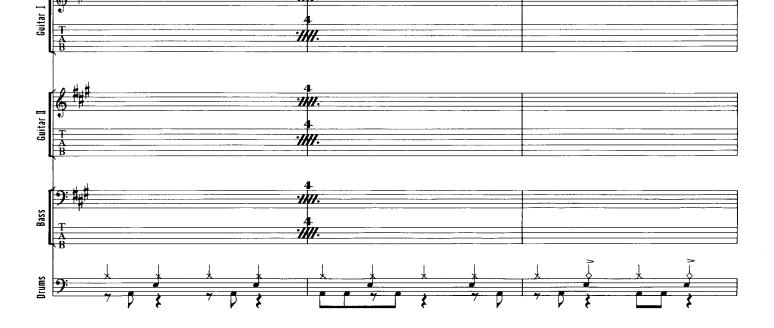


© Copyright by Bellbottoms and Beer Music(BMI) The rights for Japan assigned to Global Rights Inc.





















Ø

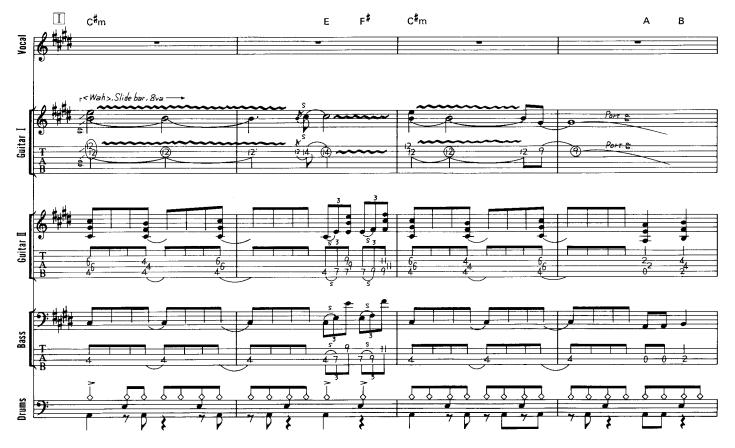
P Ż まえ

Ø

D















Port Half Open n Port H



## THE BEGINNING...AT LAST

#### ザ・ビギニング...アット・ラスト Words & Music by Zakk Wylde

アルバム『ソニック・ブリュー』の最後を締める8ビートのアップ・ テンポ・ナンバー。チューニングは、ギターが6弦のみ2音半下げ、ベ ースも4弦のみ2音半下げだ。チューニングを下げているため、他の曲 同様、ヘヴィであることには変わりが無いが、この曲に関しては、ヘヴ ィさよりも、グルーヴ感や勢いを重視してプレイしたい。ギター・ソロ を除けば、テクニック面で特に問題になる部分はないとは思うが、[B]C] のリフが5小節単位であることには、十分注意して欲しい。御存知の通 り、普通、音楽というのは4小節、あるいは8小節単位で"キリ"が良 くなるもの。従って、ある程度音楽的な勘の良い人ほど、最初は、ちょ っとした違和感を覚えるかも知れない。この場合なら、まず、リフ自体 をしっかり覚えてしまうのが手っ取り早いだろう。また、「ロウ・ダウ ン」「ボーン・トゥ・ルーズ」同様、テンポ・チェンジする部分もある が、この曲の場合は、単にテンポが1/2になるだけなので、実際にプレ イする上では、大した問題にはならないだろう。

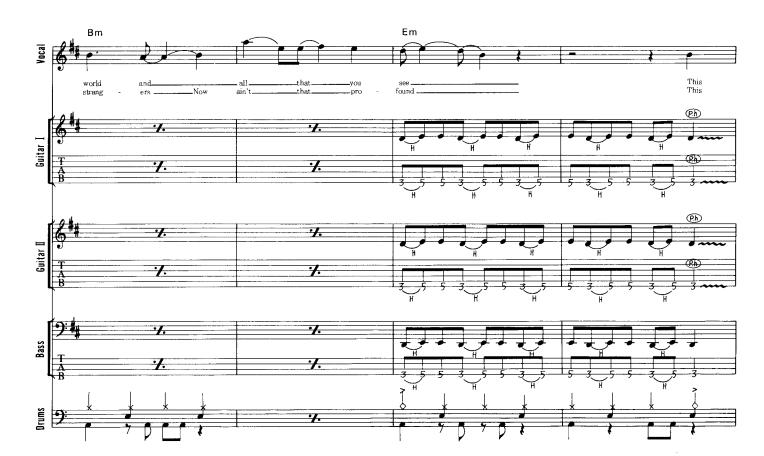


<sup>©</sup> Copyright by Bellbottoms and Beer Music(BMI) The rights for Japan assigned to Global Rights Inc.





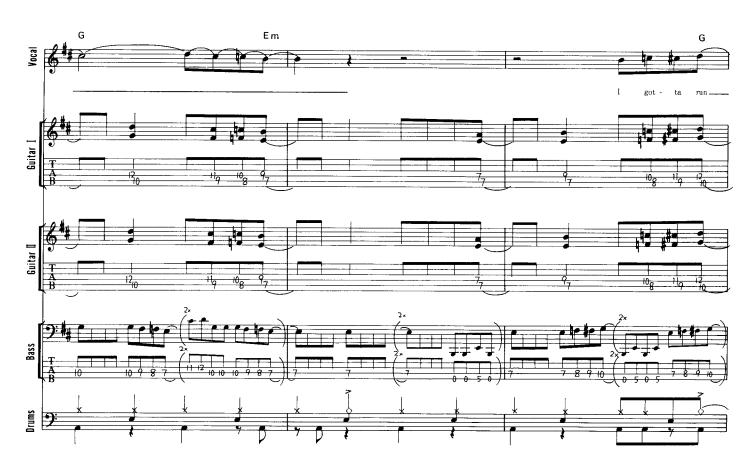




:









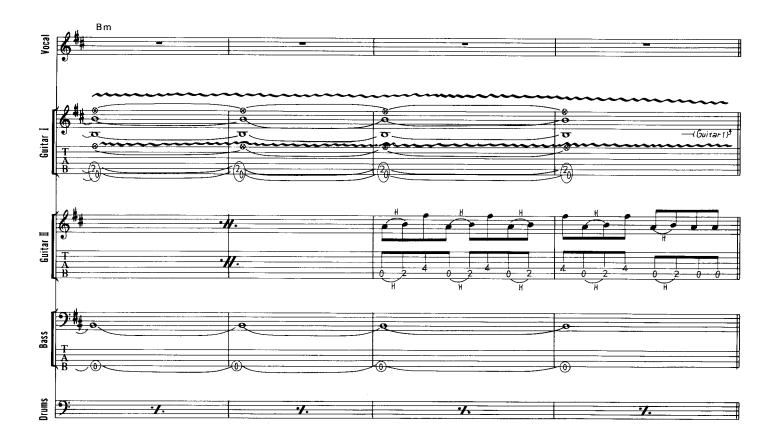


















.



